

運用報告書（全体版）

第4期

（決算日：2017年7月24日）

当ファンドの仕組みは、次の通りです。

商品分類	追加型投信／国内／株式	
信託期間とクローズド期間	原則として無期限（クローズド期間はありません）	
運用方針	中小型割安成長株・マザーファンド受益証券への投資を通じて、信託財産の中長期的な成長をめざして積極的な運用を行います。	
主要運用対象	当ファンド（ベビーフンド）	中小型割安成長株・マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。なお、株式等に直接投資することもあります。
	マザーファンド	わが国の金融商品取引所上場株式のうち中小型株を主要投資対象とします。
組入制限	当ファンド（ベビーフンド）	株式への実質投資割合に制限を設けません。外貨建資産への投資は行いません。
	マザーファンド	株式への投資割合に制限を設けません。外貨建資産への投資は行いません。
分配方針	毎決算時に、基準価額水準及び市場動向等を勘案して分配を行います。ただし分配対象額が少額の場合等、委託者の判断により収益分配を行わないこともあります。	

SBI中小型割安成長株ファンド ジェイリバイブ（年2回決算型） ／愛称：jrevivell

追加型投信／国内／株式

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、「SBI中小型割安成長株ファンド ジェイリバイブ（年2回決算型）／愛称：jrevive II」は、2017年7月24日に第4期決算を行いました。

ここに期中の運用状況をご報告申し上げます。

今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。



SBIアセットマネジメント株式会社

〒106-6017 東京都港区六本木1-6-1

お問い合わせ先

電話番号 03-6229-0097

受付時間：営業日の9：00～17：00

ホームページから、ファンドの商品概要、レポート等をご覧いただけます。

<http://www.sbiam.co.jp/>

○設定以来の運用実績

決 算 期	基 準 (分配落)	価 額			株 組 入 比 率	純 資 産 額
		税 分	込 配	み 期 金 騰 落		
(設定日)	円				%	百万円
2015年7月10日	10,000			円 —	—	208
1期(2016年1月22日)	9,889			0	△ 1.1	4,413
2期(2016年7月22日)	10,090			0	2.0	4,825
3期(2017年1月23日)	11,022			600	15.2	3,424
4期(2017年7月24日)	13,876			500	30.4	10,175

(注1) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注2) 設定日の基準価額は、設定時の価額です。

(注3) 設定日の純資産は、設定元本を表示しております。

(注4) 当ファンドは、株価が下落した銘柄の中から財務安定性に優れ、業務も安定しており、わが国の経済社会に貢献すると考えられる企業の株式に厳選投資をするという特色を持つファンドであり、ベンチマーク及び参考指数等は採用していません。

(注5) 当ファンドはマザーファンドを組入れますので、「株式組入比率」は実質比率を記載しております。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準	価 額		株 組 入 比 率
		騰 落	率	
(期 首)	円		%	%
2017年1月23日	11,022		—	100.5
1月末	11,296		2.5	94.9
2月末	11,664		5.8	95.4
3月末	12,048		9.3	95.9
4月末	12,160		10.3	96.0
5月末	13,296		20.6	94.9
6月末	13,865		25.8	93.4
(期 末)				
2017年7月24日	14,376		30.4	96.6

(注1) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比です。

(注2) 当ファンドは、株価が下落した銘柄の中から財務安定性に優れ、業務も安定しており、わが国の経済社会に貢献すると考えられる企業の株式に厳選投資をするという特色を持つファンドであり、ベンチマーク及び参考指数等は採用していません。

(注3) 当ファンドはマザーファンドを組入れますので、「株式組入比率」は実質比率を記載しております。

■当期の運用状況と今後の運用方針（2017年1月24日から2017年7月24日まで）

○基準価額等の推移



期首：11,022円

期末：13,876円（既払分配金（税込み）：500円）

騰落率：30.4%（分配金再投資ベース）

- (注1) 当ファンドは、株価が下落した銘柄の中から財務安定性に優れ、業務も安定しており、わが国の経済社会に貢献すると考えられる企業の株式に厳選投資をするという特色を持つファンドであり、ベンチマーク及び参考指数等は採用していません。
- (注2) 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したとみなして計算したファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注3) ファンドの運用経過については、当ファンドのパフォーマンスを示したものであり、ファンドの購入価額により課税条件等が異なるため、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注4) 分配金再投資基準価額は、期首（2017年1月23日）の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

○基準価額の主な変動要因

当ファンドの分配金再投資基準価額は、期首11,622円を期中最安値としてスタートし、期の後半にかけて大きく上昇しました。期の前半は、主力大型株が外部要因に振られて不安定な動きをする中、業績の比較的良好な中小型株が選好され堅調に推移しました。4月初旬に、地政学リスクの高まりやフランス大統領選挙への警戒感から調整が進みましたが、中小型株が反発すると当ファンドも再び上昇基調となりました。期の後半も、主力大型株が上値の重い展開が続く中、当ファンドは成長性、収益性の高い銘柄を中心に一段と上昇し、決算日である2017年7月24日の分配金再投資基準価額は15,159円と期中最高値で期末を迎えました。

○投資環境

当期の国内株式市場は、トランプ政権による大幅減税期待や、イエレン米連邦準備制度理事会（FRB）議長の議会証言を受けた早期米利上げ観測の高まりを背景に、底堅い推移でスタートしました。しかし、3月下旬以降、米政策への不透明感に加え地政学リスクの高まりから下落に転じると、トランプ米大統領のドル高牽制発言やフランス大統領選挙への警戒感から、円高が進むとともに株式市場は大きく調整しました。その後、4月中旬にフランス大統領選挙で中道のマクロン氏が勝利したことをきっかけに反発すると、強い米雇用統計や円安進行も相俟って一段と上昇しました。17年3月期の決算発表を受けて好業績銘柄が買われたことも寄与しました。

期の後半は、日経平均株価は2万円を挟んでこう着感の強い展開となりました。5月中旬に、米政権とロシアの不透明な関係を巡る「ロシアゲート」問題への警戒感から調整した国内株式は、6月頭に外国人投資家の買いなどを背景に急騰し日経平均株価は節目となる2万円を超えました。その後は、コミー前米連邦捜査局（FBI）長官の議会公聴会や英総選挙を控え様子見姿勢から軟調な動きとなりましたが、各イベントが問題なく通過すると上昇に転じ、更に6月の米連邦公開市場委員会（FOMC）での利上げ決定後に円安が進んだことから底堅く推移しました。6月末に主要各国で早期の金融緩和縮小観測が台頭すると利益確定売りが膨らみ、7月以降は各国金融政策の動向を睨みつつ、内閣支持率低下や日米政策を巡る不透明感などから買いが進まず、一進一退のまま期末を迎えました。

○当ファンドのポートフォリオ

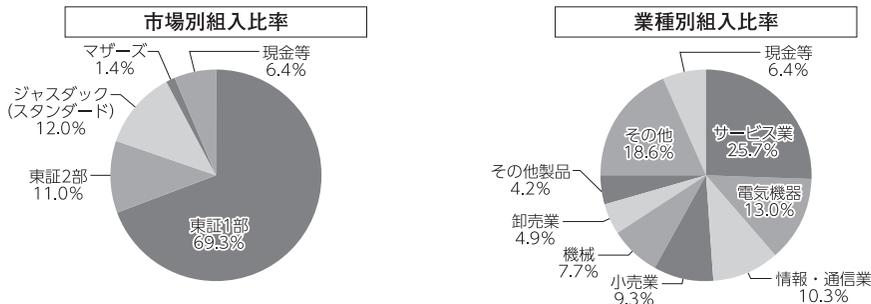
<当ファンド>

主要投資対象である中小型割安成長株・マザーファンド受益証券を高位に組入れて運用いたしました。

<中小型割安成長株・マザーファンド>

エンジェルジャパン・アセットマネジメント株式会社の助言をもとに投資判断を行い、運用いたしました。投資を行った銘柄は、株価が下落しているものの、財務安定性に優れ、業務も安定しており、わが国の経済社会に貢献すると考えられる企業です。ボトムアップ調査を行った銘柄のうち、株価水準、財務安定性、短期業績の安定性と中長期戦略、企業経営者の理念・志、等を総合的に評価判断し、概ね50銘柄を組入れ、逐次銘柄の見直しを行いました。また、銘柄分散、時間分散を考慮し、1銘柄概ね4%を上回らないようにしました。

株式の組入比率に関しては、90%以上を維持しました。期末の株式組入比率は93.6%となっています。



※組入比率はマザーファンドの純資産総額比です。四捨五入の関係で合計が100%にならない場合があります。

○当ファンドのベンチマークとの差異

当ファンドは、株価が下落した銘柄の中から財務安定性に優れ、業務も安定しており、わが国の経済社会に貢献すると考えられる企業の株式に厳選投資をするという特色を持つファンドであり、ベンチマーク及び参考指数等は採用しておりません。

○分配金

当期は、当ファンドの収益分配方針に基づき、収益分配可能額を算出し、市況動向や基準価額等を考慮した結果、1万口（元本10,000円）当たり500円（税込み）の収益分配を行うことといたしました。

なお、収益分配に充てなかった利益につきましては、信託財産に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

分配原資の内訳

（単位：円、1万口当たり、税込み）

項 目	第4期
	2017年1月24日～ 2017年7月24日
当期分配金	500
（対基準価額比率）	3.478%
当期の収益	500
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	3,876

（注1）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

（注2）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

○今後の見通しと運用方針

<当ファンド>

引き続き、主要投資対象である中小型割安成長株・マザーファンド受益証券を高位に組入れる方針で運用してまいります。

<中小型割安成長株・マザーファンド>

引き続き、エンジェルジャパン・アセットマネジメント株式会社の助言を受け当社で投資判断の上、財務内容が健全で堅実経営を継続する革新的な成長企業でありながら、株価がその実体と比して大幅に過小評価されて割安と判断される堅実成長企業を厳選して投資してまいります。

なお、投資助言を行っているエンジェルジャパン・アセットマネジメントでは、以下のようにコメントをしています。

目先の日本株式市場は、内外の政治動向や米国金融政策の行方、北朝鮮の問題などを受けて不安定な動きも想定されますが、日々の調査の中では組入企業の業績が総じて想定通りであることを確認しており、候補企業もしっかりと見つけることができています。

また産業構造にも変化が見られます。半導体製造装置の業界団体「SEMI」の発表によると、2017年の世界における半導体製造装置市場は、2000年のITバブル時を上回り過去最高になる見通しです。2018年はさらに拡大が見込まれており、半導体需要が過去になく旺盛になっていることが窺えます。実は数年前まで「半導体はスマートフォン以外に需要牽引役がない」と言われることが多く、ITバブルを上回る需要を予想していた業界関係者は極めて少ない状況でした。それが様変わりとなったわけですが、その要因として、最近面談させて頂いた経営者の方々が指摘されていたのは、IoT（モノのインターネット）と自動車です。

IoTを活用する際には、あらゆる物にセンサーや通信用半導体を取り付けます。しかも、それらから集まった膨大なデータが集積するデータセンターでも記憶媒体としてフラッシュメモリなどの半導体が使われるため、大きな需要を形成するようになりました。また自動車についても、近年は電子化・電装化が顕著に進んでおり、まるで大きなコンピュータといえる存在になってきています。実際に、パソコンやスマートフォンで使用されるものと同レベルの半導体が実装されている例も増えているようです。将来的に自動運転が実現することになれば、さらに大量の半導体が必要となるのは間違いないでしょう。折しも、ドイツの大手自動車メーカーが“レベル3”（緊急時を除き運転を自動車に任せる）と呼ばれる自動運転車を世界で初めて市販することを発表しましたが、遠い将来と思われていた新技術が手に届くところまで近づいており、新しい需要を喚起する局面に入ろうとしています。IoTや自動運転のような革新は、半導体に限らず新たなビジネスチャンスも生み出します。当ファンドとしては引き続き積極的な調査活動を行うことで、好機を活かせる革新企業を一つでも多く発掘してまいります。

○1万口当たりの費用明細

(2017年1月24日～2017年7月24日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	円 112	% 0.905	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
(投 信 会 社)	(64)	(0.517)	委託した資金の運用の対価
(販 売 会 社)	(45)	(0.361)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の 情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(3)	(0.027)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料	18	0.141	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 ※売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(株 式)	(18)	(0.141)	
(c) そ の 他 費 用	3	0.028	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(監 査 費 用)	(0)	(0.003)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(印 刷)	(3)	(0.025)	開示資料等の作成・印刷費用等
合 計	133	1.074	
期中の平均基準価額は、12,388円です。			

(注1) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 消費税は報告日の税率を採用しています。

(注3) 項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注4) 売買委託手数料及びその他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注5) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

○売買及び取引の状況

(2017年1月24日～2017年7月24日)

親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘 柄	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
中小型割安成長株・マザーファンド	千口 1,415,613	千円 6,201,000	千口 194,477	千円 748,000

(注) 単位未満は切捨て。

○株式売買比率

(2017年1月24日～2017年7月24日)

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期	
	中小型割安成長株・マザーファンド	
(a) 期中の株式売買金額	15,232,393千円	
(b) 期中の平均組入株式時価総額	15,800,735千円	
(c) 売買高比率 (a) / (b)	0.96	

(注1) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

(注2) 単位未満は切捨て。

○利害関係人との取引状況等

(2017年1月24日～2017年7月24日)

利害関係人との取引状況

<SBI 中小型割安成長株ファンド ジェイリバイブ (年2回決算型)>

該当事項はありません。

<中小型割安成長株・マザーファンド>

区 分	買付額等 A			売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	
	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$	$\frac{D}{C}$			
株式	百万円 12,617	百万円 517	% 4.1	百万円 2,614	百万円 49	% 1.9

平均保有割合 31.9%

※平均保有割合とは、マザーファンドの残存口数の合計に対する当該ベビーファンドのマザーファンド所有口数の割合。

(注) 金額の単位未満は切捨て。

売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

項 目	当 期
売買委託手数料総額 (A)	7,108千円
うち利害関係人への支払額 (B)	252千円
(B) / (A)	3.6%

(注) 売買委託手数料総額は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものです。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは株式会社SBI証券です。

○組入資産の明細

(2017年7月24日現在)

親投資信託残高

銘 柄	期首(前期末)	当 期 末	
	口 数	口 数	評 価 額
中小型割安成長株・マザーファンド	千口 987,724	千口 2,208,860	千円 10,502,467

(注) 口数・評価額の単位未満は切捨て。

マザーファンドにおける組入資産の明細につきましては、後述のマザーファンドの「運用報告書」をご参照ください。

○投資信託財産の構成

(2017年7月24日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
中小型割安成長株・マザーファンド	千円 10,502,467	% 96.2
コール・ローン等、その他	410,568	3.8
投資信託財産総額	10,913,035	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

○特定資産の価格等の調査

該当事項はありません。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2017年7月24日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	10,913,035,674
コール・ローン等	410,568,058
中小型割安成長株・マザーファンド(評価額)	10,502,467,616
(B) 負債	737,309,533
未払収益分配金	366,659,455
未払解約金	320,701,838
未払信託報酬	48,540,254
未払利息	1,124
その他未払費用	1,406,862
(C) 純資産総額(A-B)	10,175,726,141
元本	7,333,189,112
次期繰越損益金	2,842,537,029
(D) 受益権総口数	7,333,189,112口
1万口当たり基準価額(C/D)	13,876円

<注記事項(運用報告書作成時には監査未了)>

(貸借対照表関係)

期首元本額	3,107,108,398円
期中追加設定元本額	6,585,899,148円
期中一部解約元本額	2,359,818,434円

○損益の状況 (2017年1月24日～2017年7月24日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	△ 54,532
支払利息	△ 54,532
(B) 有価証券売買損益	1,249,814,781
売買益	1,482,492,893
売買損	△ 232,678,112
(C) 信託報酬等	△ 49,947,116
(D) 当期損益金(A+B+C)	1,199,813,133
(E) 前期繰越損益金	121,536,430
(F) 追加信託差損益金	1,887,846,921
(配当等相当額)	(408,513,462)
(売買損益相当額)	(1,479,333,459)
(G) 計(D+E+F)	3,209,196,484
(H) 収益分配金	△ 366,659,455
次期繰越損益金(G+H)	2,842,537,029
追加信託差損益金	1,887,846,921
(配当等相当額)	(414,260,782)
(売買損益相当額)	(1,473,586,139)
分配準備積立金	954,690,108

(注1) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) 損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注3) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注4) 計算期間末における費用控除後の配当等収益(39,765,226円)、費用控除後の有価証券等損益額(1,160,047,907円)、信託約款に規定する収益調整金(1,887,846,921円)および分配準備積立金(121,536,430円)より分配対象収益は3,209,196,484円(10,000口当たり4,376円)であり、うち366,659,455円(10,000口当たり500円)を分配金額としております。

第11期 運用報告書

(決算日 2017年7月24日)

中小型割安成長株・マザーファンド

受益者のみなさまへ

中小型割安成長株・マザーファンドの第11期（2016年7月23日から2017年7月24日まで）の運用状況をご報告申し上げます。

当マザーファンドの仕組みは次の通りです。

運用方針	わが国の金融商品取引所上場株式のうち中小型株を主な投資対象とし、信託財産の中長期的な成長を目指して積極的な運用を行います。
主要運用対象	わが国の金融商品取引所上場株式のうち中小型株を主要投資対象とします。
組入制限	株式の投資割合には制限を設けません。 外貨建資産への投資は、行いません。

○最近5期の運用実績

決 算 期	基 準	価 額		株 組 入 比 率	純 資 産 額
		騰 落	中 率		
7期(2013年7月22日)	円		%	%	百万円
	13,957		65.5	96.8	1,779
8期(2014年7月22日)	20,936		50.0	96.6	2,270
9期(2015年7月22日)	32,009		52.9	94.9	10,718
10期(2016年7月22日)	31,047		△ 3.0	98.2	14,660
11期(2017年7月24日)	47,547		53.1	93.6	28,200

(注1) 当ファンドは、株価が下落した銘柄の中から財務安定性に優れ、業務も安定しており、わが国の経済社会に貢献すると考えられる企業の株式に厳選投資をするという特色を持つファンドであり、ベンチマーク及び参考指数等は採用していません。

(注2) 株式組入比率は純資産総額に対する評価額の比率。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準	価 額		株 組 入 比 率
		騰 落	率	
(期 首) 2016年7月22日	円		%	%
	31,047		—	98.2
7月末	30,958		△ 0.3	97.5
8月末	29,534		△ 4.9	98.0
9月末	31,307		0.8	97.9
10月末	32,392		4.3	97.2
11月末	33,584		8.2	97.3
12月末	35,292		13.7	97.1
2017年1月末	37,008		19.2	96.2
2月末	38,281		23.3	96.6
3月末	39,602		27.6	97.0
4月末	40,017		28.9	96.9
5月末	43,854		41.3	95.6
6月末	45,802		47.5	93.8
(期 末) 2017年7月24日	47,547		53.1	93.6

(注1) 騰落率は期首比。

(注2) 当ファンドは、株価が下落した銘柄の中から財務安定性に優れ、業務も安定しており、わが国の経済社会に貢献すると考えられる企業の株式に厳選投資をするという特色を持つファンドであり、ベンチマーク及び参考指数等は採用していません。

(注3) 株式組入比率は純資産総額に対する評価額の比率。

■当期の運用状況と今後の運用方針（2016年7月23日から2017年7月24日まで）

○基準価額等の推移



当マザーファンドの基準価額は期首31,047円から始まったあと、期末には47,547円となりました。期を通じて騰落率は53.1%の上昇となりました。

○投資環境

当期の国内株式市場は、日銀による上場投資信託（ETF）の買入増額を好感する一方、米利上げ時期の見極めや、欧州金融システム不安を背景に一進一退の展開からスタートしました。10月に原油高を受けた欧米株高などを背景に上昇に転じると、11月の米大統領選挙でトランプ氏勝利を受け一時急落する局面もありましたが、トランプ氏が掲げる財政刺激策への期待が高まると、一転してドル高・円安が進み、国内株式も年末にかけ大きく上昇しました。

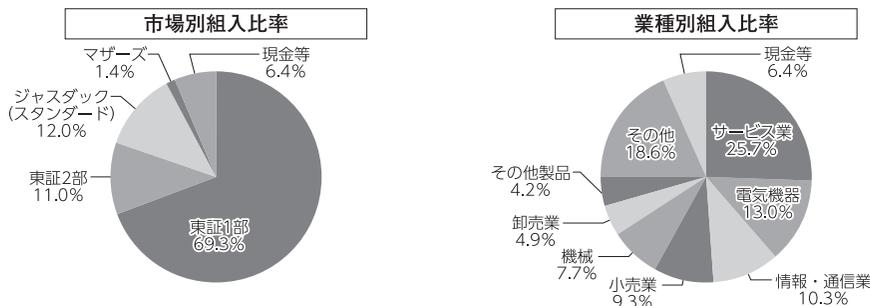
期の中旬は、急上昇の反動に加え、期待先行だったトランプ米大統領の政策への楽観的な見方の後退などから下落に転じ、その後は、世界的な製造業の景況感改善が株価を下支えする一方、トランプ米大統領の保護主義政策などへの警戒感からこう着感の強い展開が続きました。3月下旬に米政策への不透明感に加え地政学リスクの高まりから下落に転じると、トランプ米大統領のドル高牽制発言やフランス大統領選挙への警戒感から、円高が進むとともに株式市場は大きく下落しました。

期の後半は、フランス大統領選挙で中道のマクロン氏が勝利したことをきっかけに反発し、強い米雇用統計や円安進行も相俟って5月にかけ大きく上昇しました。17年3月期の好業績銘柄が買われたことも寄与しました。5月中旬に、米政権とロシアの不透明な関係を巡る「ロシアゲート」問題への警戒感から調整したものの、6月頭には外国人投資家の買いなどを背景に急騰し日経平均株価は節目となる2万円を超えました。その後は、米政権の政策運営の不透明感や、各国金融政策を見極めたいとの思惑から狭いレンジでの取引が続きました。6月末以降は日本を除く主要各国で早期の金融緩和縮小観測が台頭したことから神経質な展開となり、期末にかけては内閣支持率低下や日米政策を巡る不透明感などから買いが進まず、一進一退のまま期末を迎えました。

○当ファンドのポートフォリオ

エンジェルジャパン・アセットマネジメント株式会社の助言を受け、運用を行いました。投資を行った銘柄は、株価が下落しているものの、財務安定性に優れ、業務も安定しており、わが国の経済社会に貢献すると考えられる企業です。ボトムアップ調査を行った銘柄のうち、株価水準、財務安定性、短期業績の安定性と中長期戦略、企業経営者の理念・志、等を総合的に評価判断し、概ね50銘柄を組入れ、逐次銘柄の見直しを行いました。また、銘柄分散、時間分散を考慮し、1銘柄概ね4%を上回らないようにしました。

株式の組入比率に関しては、90%以上を維持しました。期末の株式組入比率は93.6%となっています。



※組入比率は純資産総額比です。四捨五入の関係で合計が100%にならない場合があります。

○今後の見通しと運用方針

引き続きエンジェルジャパン・アセットマネジメント株式会社の助言を受け当社で投資判断の上、財務内容が健全で堅実経営を継続する革新的な成長企業でありながら、株価がその実体と比して大幅に過小評価され、割安と判断される堅実成長企業を厳選して投資してまいります。

なお、投資助言を行っているエンジェルジャパン・アセットマネジメントでは、以下のようにコメントしています。

目先の日本株式市場は、内外の政治動向や米国金融政策の行方、北朝鮮の問題などを受けて不安定な動きも想定されますが、日々の調査の中では組入企業の業績が総じて想定通りであることを確認しており、候補企業もしっかりと見つけることができています。

また産業構造にも変化が見られます。半導体製造装置の業界団体「SEMI」の発表によると、2017年の世界における半導体製造装置市場は、2000年のITバブル時を上回り過去最高になる見通しです。2018年はさらに拡大が見込まれており、半導体需要が過去になく旺盛になっていることが窺えます。実は数年前まで「半導体はスマートフォン以外に需要牽引役がない」と言われることが多く、ITバブルを上回る需要を予想していた業界関係者は極めて少ない状況でした。それが様変わりとなったわけですが、その要因として、最近面談させていただいた経営者の方々が指摘されていたのは、IoT（モノのインターネット）と自動車です。

IoTを活用する際には、あらゆる物にセンサーや通信用半導体を取り付けます。しかも、それらから集まった膨大なデータが集積するデータセンターでも記憶媒体としてフラッシュメモリなどの半導体が使われるため、大きな需要を形成するようになりました。また自動車についても、近年は電子化・電装化が顕著に進んでおり、まるで大きなコンピュータといえる存在になってきています。実際に、パソコンやスマートフォンで利用されるものと同レベルの半導体が実装されている例も増えているようです。将来的に自動運転が実現することになれば、さらに大量の半導体が必要となるのは間違いないでしょう。折しも、ドイツの大手自動車メーカーが“レベル3”（緊急時を除き運転を自動車に任せる）と呼ばれる自動運転車を世界で初めて市販することを発表しましたが、遠い将来とされていた新技術が手に届くところまで近づいており、新しい需要を喚起する局面に入ろうとしています。IoTや自動運転のような革新は、半導体に限らず新たなビジネスチャンスも生み出します。当ファンドとしては引き続き積極的な調査活動を行うことで、好機を活かせる革新企業を一社でも多く発掘してまいります。

○1万口当たりの費用明細

(2016年7月23日～2017年7月24日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 売 買 委 託 手 数 料 (株 式)	円 79 (79)	% 0.218 (0.218)	(a) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 ※売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(b) そ の 他 費 用 (そ の 他)	0 (0)	0.000 (0.000)	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 信託事務の処理等に要するその他費用
合 計	79	0.218	
期中の平均基準価額は、36,469円です。			

(注1) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

○売買及び取引の状況

(2016年7月23日～2017年7月24日)

株式

国 内	上 場	買 付		売 付	
		株 数	金 額	株 数	金 額
		千株	千円	千株	千円
		11,211	14,606,433	7,870	8,936,828
		(924)	(-)		

(注1) 金額は受け渡し代金。

(注2) 単位未満は切捨て。

(注3) ()内は株式分割、予約権行使、合併等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

○株式売買比率

(2016年7月23日～2017年7月24日)

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期
(a) 期中の株式売買金額	23,543,261千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	14,336,828千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	1.64

(注1) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

(注2) 単位未満は切捨て。

○利害関係人との取引状況等

(2016年7月23日～2017年7月24日)

利害関係人との取引状況

区 分	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$
			%			%
株式	百万円 14,606	百万円 617	% 4.2	百万円 8,936	百万円 291	% 3.3

(注) 金額の単位未満は切捨て。

売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

項 目	当 期
売買委託手数料総額 (A)	32,310千円
うち利害関係人への支払額 (B)	1,274千円
(B) / (A)	3.9%

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは株式会社SBI証券です。

○組入資産の明細

(2017年7月24日現在)

国内株式

銘柄	期首(前期末)		当 期 末	
	株 数	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千株	千円
食料品 (－%)				
イトアンド	74.5	—	—	—
化学 (3.5%)				
ボラテクノ	—	159.3	143,370	
アジュバンコスメジャパン	214.3	—	—	
有沢製作所	—	840	782,040	
藤森工業	140	—	—	
石油・石炭製品 (1.6%)				
MORESCO	—	184.5	415,125	
ガラス・土石製品 (3.7%)				
Mipox	446.2	—	—	
ニチハ	250	239	984,680	
金属製品 (－%)				
サンコーテクノ	292.1	—	—	
機械 (8.2%)				
高松機械工業	—	324.2	307,990	
日進工具	217.2	425	841,075	
ヒラノテクシード	490	270	439,020	
日精エー・エス・ビー機械	221.1	65	250,250	
キトー	110	—	—	
ユージン精機	43	120.5	327,398	
電気機器 (13.9%)				
ダブル・スコープ	120	—	—	
SEMITEC	122.4	129.7	357,712	
寺崎電気産業	—	243.6	323,013	
第一精工	272.7	376	964,064	
メディアリンクス	246.8	—	—	
ワコム	1,004.8	—	—	
鈴木	551.2	545.5	422,762	
アオイ電子	—	176	746,240	
日本マイクロニクス	90	695	849,290	
オブテックスグループ	112	—	—	
精密機器 (3.4%)				
国際計測器	—	103.1	102,687	
東京精密	172	205	787,200	

銘柄	期首(前期末)		当 期 末	
	株 数	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千株	千円
その他製品 (4.5%)				
前田工織	402.2	180	290,520	
SHOEI	244	275.9	898,054	
萩原工業	58	—	—	
陸運業 (2.7%)				
サカイ引越センター	115	166	719,610	
倉庫・運輸関連業 (2.3%)				
内外トランスライン	326.6	465	607,755	
情報・通信業 (11.0%)				
ブロードリーフ	340.8	381.7	278,259	
バリサーブ	—	195	655,200	
リスクモンスター	179.2	—	—	
朝日ネット	—	1,080	563,760	
プロトコーポレーション	—	320	549,120	
スカパーJ S A Tホールディングス	655	—	—	
コネクシオ	210	—	—	
福井コンピュータホールディングス	230	217	852,810	
卸売業 (5.2%)				
カッシーナ・イクスシー	156.2	151.7	133,647	
ディーブイエックス	45	—	—	
大阪工機	—	66.9	55,861	
ウイン・パートナーズ	127	492.1	683,526	
デリカフーズ	—	299.7	503,496	
小売業 (9.9%)				
くらコーポレーション	79.5	156	851,760	
コメ兵	40	—	—	
ハブ	104.5	453.5	504,745	
ティーライフ	53.6	—	—	
エー・ビーカンパニー	—	300	264,900	
ビーシーデポコーポレーション	328	665.4	418,536	
サックスパー ホールディングス	—	470	581,860	
不動産業 (2.7%)				
サンセイランディック	96.8	—	—	
飯田グループホールディングス	—	385	701,085	
青山財産ネットワークス	240	—	—	

銘柄	期首(前期末)	当 期 末	
	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千円
サービス業 (27.4%)			
アイティメディア	475	560	388,640
リニカル	—	330	641,520
シイエム・シイ	3.2	60	246,900
エブコ	77	212.2	400,421
キャリアデザインセンター	328.2	95	135,185
ライク	185	23.5	92,002
翻訳センター	75.1	17.3	67,556
プレステージ・インターナショナル	302	660	809,820
アミューズ	200	280	851,200
ラウンドワン	—	795	946,845
リゾートトラスト	150	300	606,300

銘柄	期首(前期末)	当 期 末		
	株 数	株 数	評 価 額	
	千株	千株	千円	
東京個別指導学院	570	—	—	
デザイン	332	314	264,702	
トスネット	207.2	191.2	207,069	
エン・ジャパン	208	266	843,220	
リブセンス	—	820	510,040	
アサンテ	231.7	—	—	
ダイセキ	—	85	227,630	
合 計	株 数 ・ 金 額	12,566	16,831	26,397,478
	銘柄数<比率>	54	52	<93.6%>

(注1) 銘柄欄の()内は、国内株式の評価総額に対する各業種の比率。

(注2) 合計欄の< >内は、純資産総額に対する評価額の比率。

(注3) 株数・評価額の単位未満は切捨て。ただし、株数が単位未満の場合は小数で記載。

(注4) —印は組入れなし。

○投資信託財産の構成

(2017年7月24日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
株式	26,397,478	92.4
コール・ローン等、その他	2,160,486	7.6
投資信託財産総額	28,557,964	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

○特定資産の価格等の調査

該当事項はありません。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2017年7月24日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	28,557,964,268
コール・ローン等	2,032,809,304
株式(評価額)	26,397,478,800
未収入金	103,835,164
未収配当金	23,841,000
(B) 負債	357,927,451
未払金	357,921,882
未払利息	5,569
(C) 純資産総額(A-B)	28,200,036,817
元本	5,930,927,573
次期繰越損益金	22,269,109,244
(D) 受益権総口数	5,930,927,573口
1万口当たり基準価額(C/D)	47,547円

<注記事項>

(貸借対照表関係)

期首元本額	4,721,885,784円
期中追加設定元本額	3,480,024,073円
期中一部解約元本額	2,270,982,284円
期末における元本の内訳	
SBI中小型割安成長株ファンド ジェイリバイブ	2,731,422,436円
中小型割安成長株ファンド ジェイリバイブ (適格機関投資家専用)	317,068,582円
SBI中小型割安成長株ファンド ジェイリバイブ (年2回決算型)	2,208,860,205円
中小型割安成長株ファンド ジェイリバイブ 分配型 (適格機関投資家専用)	343,081,003円
中小型成長株ファンド ジェイスター (愛称: Jstar)	103,345,223円
SBI中小型割安成長株ファンド ジェイリバイブ<DC年金>	227,150,124円

○損益の状況 (2016年7月23日～2017年7月24日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	284,250,669
受取配当金	284,733,050
その他収益金	10,115
支払利息	△ 492,496
(B) 有価証券売買損益	6,326,358,721
売買益	6,865,249,253
売買損	△ 538,890,532
(C) その他費用	△ 4,156
(D) 当期損益金(A+B+C)	6,610,605,234
(E) 前期繰越損益金	9,938,260,299
(F) 追加信託差損益金	11,302,476,927
(G) 解約差損益金	△ 5,582,233,216
(H) 計(D+E+F+G)	22,269,109,244
次期繰越損益金(H)	22,269,109,244

(注1) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注3) 損益の状況の中で(G)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。